


山 行 報 告 書

山行報告者：後藤

山 域・山 名：西穂高(2909m)～奥穂高(3090m) (長野県松本市&岐阜県高山市)	
入山日又は期間：令和3年7月21日(水) ～ 23日(金) (2泊3日)	
プラン担当者 正：後藤 副：	
参 加 者	L：後藤 記： 報：
	男 1名、女 名、計 1名
	
7月21(水)	(12:00)上高地帝国H(12:30)―(15:00)西穂山荘 CS
7月22日 (木)	西穂山荘CS(4:40)―(5:45)西穂独標―(7:00)西穂高岳 ―(9:20)天狗ノコルー (11:50)ジャンダルム―(13:40)奥穂高岳―(14:40)穂高岳山荘 CS
7月23日 (金)	穂高岳山荘CS(5:45)―(7:15)涸沢ヒュッテ(7:30)―(9:40)横尾(9:55)― (10:50)徳沢(11:05)―(11:50)明神(12:05)―(12:05)上高地
装 備 と 食 糧	共同装備：共 同 食 なし 車提供者： なし
	個人装備：ヘルメット、セルフビレイ、ヘッドランプ、雨具、防寒衣、コンパス、地図、 テント、マット、シュラフ、ガス、コックフェル、食器、ポール、 個 人 食：21日昼・夕、22日朝・昼・夕、23日朝・昼、 行動食・非常食
感 想 & 要 注 意 事 項	<p>・いつか、挑戦したいと思っていたルート。当初、西穂山荘のテント場は、すぐに予約できたが、穂高岳山荘のテント場が満員で予約できなかったため諦めていた。キャンセルが出たのか、後日、予約が取れたので決行。西穂山荘までは、上高地側から登った。会ったのは、同じルートを行く、同じ単独行者のみだった。(小屋泊まりでザックが小さいのがつらやましかった)</p> <p>・2日目、テント場から西穂高までは順調に。西穂高から奥穂高間はザックの重さに閉口。そして、気の抜けないコースで「ルートを誤ると谷底へまっしぐら」のコース。天気は良かったが、前日も午後から雷が鳴り、雨が降り出し、この日も雲が出てきた。途中で雷になったらと思うと生きた気がしない。あせるが、バテてルートを探しながら距離が稼げない。身も心も疲れ果て、どうにか予定通り10時間で行動を終了できた。</p> <p>・西穂高から奥穂高まではペンキはあるが少ないため、的確なルートファインディングが必要となる。また、正しいルートでも、慎重な足運びが重要。</p> <p>・最終日は、奥穂高を登り返して前穂高に登るルートを計画していたが、奥穂高へ登り返す元気がなく、岳沢へのルートに変更、上高地へ下山。</p>